ベストクラス選定理由書

作成者：堀川太慧・嵐美貴子・廣瀬堅一・五十木汐音・山本愛莉・山中敬斗・吉髙朱音・須田康之

科目名称　　クラスセミナーⅠ（D クラス） （担当教員名：永田夏来）	
課　　程　：　学部	開講時期　：　前期
授業形態　：　演習	授業規模　：　３０人以下
インタビュー対象教員名　　永田夏来 （実施日時：7 月 22 日（月）；　実施場所：自然棟 205）	
インタビュー対象受講者名　　五十木汐音 （実施日時：7 月 3 日（水）；　実施場所：共通講義棟 107）	

選定理由

ベストクラス選定の理由として以下の２つを挙げる。

１つ目は、履修者及び教員における授業への満足度が非常に高いことである。履修者においては、工夫された授業内容や教員の授業中における雰囲気づくり、授業外における教員からの関わりなどにおける評価が非常に高く、積極的に学習に取り組むことができていた。また、教員自身も履修者の学習意欲の高さや教師になりたいという思いを高く評価し、よりよい授業になるように様々な工夫を考え、実施されていた。これらのことから、本授業では、履修者と教員がともによりよい授業になることを目指して取り組んでいたと考えることができる。

２つ目は、教員の授業における工夫である。本授業は、１回生の段階で受講する演習形式の授業である。教員は、履修者に対し、自律的な学習者となることと目指すべき教員像について具体的に示し、学生が大学生活４年間のビジョンを描くことができるようになることを授業のねらいとして設定していた。教員はこのねらいの達成を目指すべく、修学旅行の計画を立てるという授業を考案し、引率することの大変さ、移動によるコスト面、教育的効果を考えるなどといったことを実感させようとした。このことによって、学生は、教育の受け手から立場が逆転して自分たちが教員になるという切り替えを余儀なくされた。教員は意図して、学生に対し、指導者の立場で児童生徒に寄り添うことの大切さを理解させ、４年間のビジョンにおける土台をしっかりと固めさせることを行っていた。教員は、履修者と個人面談などを通じてコミュニケーションを取りながら、活動の形態を履修者の状況に合わせて変更を行っていた。これらのことから、教員が授業におけるねらいをしっかりと定めそのねらいの達成を目指すべく様々な工夫を施していたこと、教員が履修者の状況を鑑みながら授業の活動形態を変更していったこと、ねらいが授業の中に反映されつつも教員からの一方的な講義ではなく教員と履修者との間で双方向に意見が交わされながら授業が展開されていたこと、が読み取れる。

以上のことから、本授業においては、履修者と教員がともによりよい授業になることを目指し、履修者と教員との間で双方向に意見の交流が行われており、教員から履修者へといったような一方向の講義とは一線を画すような授業であることがわかる。そのため，本授業は，「クラスセミナーⅠ」における新しいモデルとなりうると考え、ベストクラスとして推薦する。